



きらきら☆いわてっこ

信頼関係を基盤に
自分の力でやり遂げることで、
達成感を味わい自信をもって行動する



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるようになる。

園庭での一コマ。子どもたちは、信頼する保育者の「やったね」「できたね」の声に支えられながら、築山での滑り台遊びや秘密基地での遊びに興味や関心をもち、それらのものに自分から触れ、繰り返し遊んでいました。また、友だちが高い壁を乗り越えて秘密基地に出入りしている姿を見て「自分もやりたい」と挑戦し始めました。はじめは不安そうにしていた子どもも、保育者の「大丈夫、ここにいるよ」の言葉、表情や友達の励ましに、安心して自ら体を動かし、「やったあ」と笑顔になりました。こうした保育者や友達との関わりは、子どもの行動範囲を広げ、身体や運動の機能を高めるとともに、人やものとの関わりをさらに広げていきます。



遊びのイメージが広がり、ものが増えていくと、新たなルールも増えていく
「靴おくマットあるからね〜」
「ここ飛び越えなしだよ」

「ちょっと怖いんですけど〜」
「大丈夫！マット敷いてあげたから」
「足場もつけたから、足かけて」
力強い友達の応援に支えられて、
ちょっと難しいことに挑戦



「ダメだ！両手を離すのちょっと怖い〜先生、下おさえて〜」
「まかせて〜こう？」
「うん」

<自立心について>

幼児は、身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、信頼する教師に支えられながら、物事を最後まで行う体験を重ね、自分の力でやろうとする気持ちをもったり、やり遂げた満足感を味わったりするようになる。

幼児期に生まれた自立心は、小学校生活において、自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿や、生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿、自分なりに考えて意見を言ったり、分からないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする姿など、日々の生活が楽しく充実することにつながっていく。

1 子どもが夢中になって遊び、よく考える環境

～0歳児編～

こんな関わりを心掛けましょう



0歳児前半では⇒泣くことは子どもの思いや欲求の表現です。放っておかないで関わりましょう。

その時に子どもが泣いている意味を考えて、「おなかが空いたのかな」「抱っこかな」「遊んでほしいのかな」など、気持ちに共感する言葉を掛けてあげましょう。この繰り返しの中で、子どもには、「泣くと誰かが応答してくれるんだ」という安心感とともに自己肯定感の基盤が育まれていきます。保育者は、穏やかな声で、ゆっくりと話しかけてあげましょう。丁寧に子どもの目を見ながら温かく関わっていきましょう。

0歳児後半では⇒行動の範囲が広がり、人見知りや場所見知りが始まります。「びっくりしたのね」「そばにいるよ」「大丈夫だよ」など、子どもの気持ちを受け止めて共感しましょう。信頼できる大人がそばにいてくれることで安心感をもち、様々な探究をするようになります。伝えたいことも増えてたくさんのことば（喃語、泣き声・表情・指差しなど）が出てきます。保育者は、子どもの思いを受け止めて「おいしいね」「ねこちゃんいたね」など、たくさんお話ししましょう。

こんな環境を創りましょう



0歳児前半では⇒子どもが眠る時は、静かな環境を整えます。子どもが起きている時は、子どもの興味や関心をもてるようなおもちゃなどを準備して、子どもが保育者と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにしましょう。

0歳児後半では⇒寝返り、はいはい、つかまり立ちが十分にできるよう、安全なスペースを作りましょう。園の外にも子どもの興味・関心をひく環境がたくさんあります。園庭にも積極的に出ましょう。公園や原っぱ、町中探検も楽しさいっぱいです。わくわくするような場所を調べて、お散歩マップを作ることをお勧めします。

(担当者が替わっても役立ちます。)

手先の発達を助ける環境（おもちゃや水・砂遊びなど）を工夫して十分に遊ばせましょう。

食事では、意欲的に食べる“手づかみ食べ”も大事にしましょう。

人とのやりとりを楽しむ時期です。まねっこ遊び、わらべ歌遊びやふれあい遊びなどをして保育者と関わりながら、「遊ぶって楽しい！」を伝えていきましょう。

心の安定は意欲に、身の回りのものすべてに見て触ってワクワクする気持ちは、探究心につながっていきます。

2 0歳児にお勧めの環境

絵本大好き



保育者手作りの
風船マット



目に優しい天井ターフ
とモビール



手づかみ食事で
パクパク

